

談山神社 (奈良県桜井市) 談山神社の正門に掲載。



645年 乙巳の変：(クーデター)

百濟王族（鎌足：智積）による  
蘇我入鹿の暗殺。

同年同月同日に  
蘇我善徳（厩戸王子）も暗殺され  
るが、日本書紀から抹消された。

(善徳：AD581-645年 享年64歳)

飛鳥寺 (釈迦像、入鹿首塚、太子首佛)



※藤原鎌足は、物部氏と蘇我氏の仏教論争を利用し、物部氏の敵討ちに見せかけて、  
蘇我氏を滅ぼしたことを正当化した。(大化の改新)

## 聖徳太子（蘇我善徳）の霊廟（叡福寺）



叡福寺には、蘇我善徳（厩戸王）と2人の女性が眠っている。

蘇我系女性：母は欽明天皇の皇女（穴穂部間人皇女）

物部系女性：妃は物部守屋の娘（刀自古郎女）

※物部一族と蘇我一族の部族対立ではなかったことがわかる。

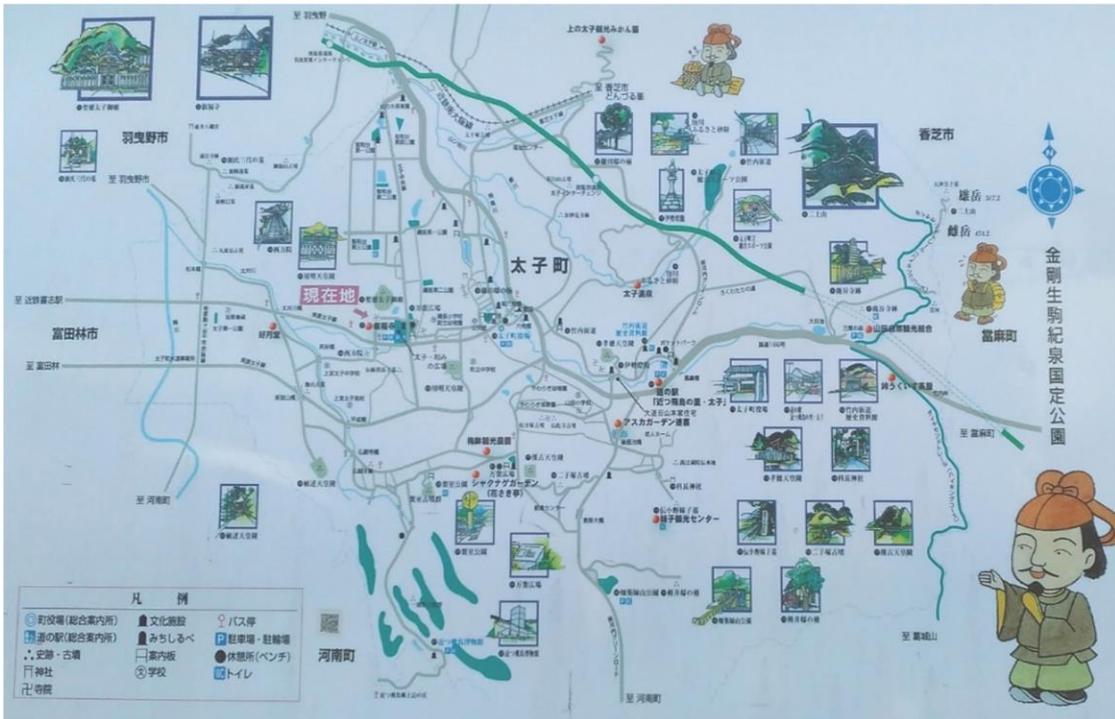
<参考>藤原鎌足・不比等親子の墓は、近年になって、岡寺近くの何もない平地の地下で石櫃が見つかった。漢民族や朝鮮民族などの儒教国では、恨みのある相手は死後であっても、墓を暴いて、鞭を打ったり呪ったりする。

鎌足・不比等は、死後、政敵や民衆から、墓を暴かれることを恐れて、地下に石室を隠させたのだろう。（※鎌足は、蘇我大王の古墳の土を剥ぎ取らせて、「石畳」のみにしている）

## 竹内街道（上の太子町駅の立札）



## 太子町周辺（推古陵・妹子塚・馬子塚）・・・蘇我一族



## <記紀の始まり>

聖徳太子が起草した天皇記・国記には、どのように記載されていたのだろうか？

1. 古事記には、最初に高天原の天上界から、造化三神が現れた。
2. 日本書紀には、最初に豊葦原の葦の芽から、国常立尊が生まれた。
3. 先代旧事紀には、最初に国狭霧尊が生まれた後、天御中主尊が生まれた。

## 聖徳太子 (厩戸皇子・厩戸王)

聖徳太子像(菊池容齋『前賢故実』より)



称号	上宮王、豊聡耳、上宮之厩戸豊聡耳命、 法主王、豊聡耳聖徳豊聡耳法大王、 上宮太子聖徳皇、厩戸豊聡耳聖徳法王、 上宮厩戸、厩戸皇太子
諡号	用明天皇第二皇子 : 聖徳太子 厩戸皇子・王、太子 : 皇太子、摂政
出生	574年2月7日(敏達天皇3年1月1日)
死去	622年4月8日(推古天皇30年2月22日)
埋葬	磯長墓(叡福寺北古墳)
配偶者	菟道貝蛸皇女、刀自古郎女、 橘大郎女、膳大郎女
子女	山背大兄王、財王、日置王、白髪部王 長谷王、三枝王、伊止志古王、麻呂古王 片岡女王、手島女王、春米女王、 久波太女王、波止利女王、馬屋古女王
母親	穴穂部間人皇女

### 「上の宮聖徳法王・帝説」

法隆寺の救世観音像は、布でぐるぐる巻きにされ、封印されてきた。  
その後頭部には、直接、光背(後光)が杭釘で打ち付けられていた。

(注: 1887年米国の美術史家フェノロサによって夢殿を開扉時に発見された。)

太子の母は、鬼前大后にすり替えられて、太子と母と妃(刀自古郎女)  
の3人は、病気でほぼ同時に亡くなったとされるが、実際は毒殺された。

※「万葉集」(大伴家持)には、藤原氏を呪う歌を数多く載せている。